

洛中の知られざる紅葉の社寺

講師 西山克 関西学院大学文学部教授 文化歴史学科日本史学専修

秋の京都は紅葉を見ているのか人を見ているのかわからないほど観光客で一杯、今回はあまり知られていない紅葉の名所に西山先生が連れていってくださいます。

まず京都大学近くの吉田神社、節分の行事が有名ですがこの時期は訪れる人もまばら、平安京守護の神社として1200年ほど前に創建されて以来皇室の崇敬を受けてきました。東山三十六峰の一つで、坂を登って奥宮にゆくと紅葉が出迎えてくれます。そこから坂を下って真如堂へ、驚くほど楓が三重の塔に美しく映え、なぜこんなに素晴らしい所を知らなかったのだろうかと後悔するほど。その隣にある金戒光明寺は法然上人が草庵を結んだのが始りの大寺院、知恩院と並ぶ格式を誇る浄土宗のお寺で、そびえ立つ山門、慶長十年豊臣秀頼によって再建された阿弥陀堂など歴史のある建造物が立ち並んでいます。昼食は京都大学構内のお洒落なレストラン、ラトゥールで優雅にランチをいただきます。京大構内など用がなければいきませんが、シンボルの時計台など見てきましょう。

日時 12月2日(日) 8:00~18:00 参加費 会員 15,000円 ビジター 16,000円(バス代・拝観料・昼食代・保険料含む)
集合 7:55に五十鈴川駅集合 定員 19名限定

五十鈴塾塾長・民俗学者

神崎宣武 特別講座

神崎 宣武 旅の文化研究所所長・文化庁文化審議会専門委員

旅する神々② たけみかずちのかみ 建御雷神、出雲から諏訪へ

おおくにぬしのみこと 大国主命が あしわらなかつくに 平定した葦原中国が高天原に「国譲り」されます。

それに反対した大国主命の末子、建御雷神は、天照大御神の臣下との戦いに敗れ、諏訪の国に追放されました。その未知なる東国への旅は、どんなものだったのでしょうか。また、諏訪での納まりは、どんなものだったのでしょうか。想像をたくましくして、たどってみることにしましょう。

日時 2月20日(水) 18:30~20:00 参加費 会員 1,100円 ビジター 1,600円
場所 五十鈴塾右王舎 定員 30名

『「日本」に出会う』シリーズ 第十回

日本各地から地方色が失われています。そして、季節の風情や味覚までも。つまり、日本文化を構成する多様性が失われつつあるのです。何をもち「日本らしさ」とかというの議論がわかれるところですが、五十鈴塾が注目する「日本らしさ」に神崎塾長と出会いに行ってみたく思います。回数を重ねると、次に繋げなければならない何かが見えてくることを期待して、歩いて・見て・話しあってみましょう。

仏教伝来と日本の神~法隆寺と中宮寺~

法隆寺は聖徳太子により推古15年(607年)ころに亡き父用明天皇のために建てられたと伝わります。

日本書紀によると670年に焼失し、その後飛鳥時代の様式で再建されたのが、世界最古の木造建築群として知られる西塔伽藍だそうです。

東塔伽藍は太子が造営した斑鳩宮が荒れ果てていたのを嘆いた奈良時代の僧によって、739年頃に夢殿を建立され、

これを中心とした建築群です。聖徳太子は古代のスーパーstarで蘇我馬子と協力して政治を行い、中国の文化や制度を取り入れ、冠位12階や17条憲法を定め、中央政権国家の実現を図ったほか、仏教を取り入れました。

原始宗教ともいえる八百万の神々を信仰していた日本に、しっかりとした教義にのっとった宗教が入ってきたことで、かなりの混乱が生じたらしく神道を固辞する物部氏と仏教を広めようとする蘇我氏の間で争いがあったほどです。

神崎塾長に仏教の伝来が日本の神に及ぼした影響などについてうかがいます。

近くにある中宮寺は聖徳太子の母によって建立されましたが、その後衰退し戦国時代の終りに、尼門跡として再興されました。

国宝の木造菩薩半跏像は飛鳥時代の作でスフィンクス、モナリザと並んで世界の三つの微笑像として有名です。

日時 2月21日(木) 8:00~18:00 参加費 会員 15,000円 ビジター 16,000円(バス代・拝観料・昼食代・保険料含む)
集合 7:55に五十鈴川駅集合 定員 18名限定